

第3回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 議事録

日 時 平成20年10月23日(木) 午後4時～午後5時30分
場 所 ユアーズホテルフクイ5F ルミエール
出席者 別紙のとおり
資 料 別紙1～3のとおり

1. 挨拶

2. 議題

(1) アンケートの結果について

資料に基づき事務局より説明があり、主な質疑応答は以下のとおりである。

- 委員 24 ページに「福武線の利用を増やすための意見・提案」とあるのは、事業所からだけのことですか。すべてのアンケートから来ていることですか。
- 事務局 最後の部分は、事業所から出たアンケートでございます。他に一般の方から出てきました意見・提案は非常に膨大な数ございまして、別途まとめてございますけれども、本日、ここに記載はしてございません。
- 座 長 3,846人が回答しているということは、かなり貴重な意見がたくさん寄せられているということで理解してよろしいですか。
- 事務局 そうでございます。
- 委員 アンケートを実施していただきまして、大変御苦勞をおかけしたと思います。感謝申し上げます。アンケート結果の御説明をお聞きしておりまして、かなりの方が、いろいろな面で改善されれば利用してもよいというふうに言っておられますので、利用客の増加の可能性が、これを見る限り、はっきりしてきたんじゃないかなというふうに喜んでおる次第であります。現状の中で、運営の仕方を工夫すればできるものもあるなど。また、設備の改善や新設、要員の配置などの、投資とか増員を行えばできるものもあると思った次第であります。設備投資についても、かなり大がかりなものから小さなものまであると思っておりますけれども、今、このアンケートの結果をお聞きいたしまして、やはり順次関係する皆様方と御相談しながら、検討して順次進めていかなければいけないんじゃないかなという考えを持ちましたので、どうぞよろしく願います。
- 座 長 見て感じたのは、例えば1 ページの一番最初のところですけども、書きぶりとして、「ほとんど利用したことがない」が48%という出だしから始まって、どうなのかなという気がちょっとしました。要するに、今回の連携計画の場合は利用している人の利便性向上を図るということと、どうやって利用促進を図るかということの計画だと思っておりますので、書きぶりとして、半数以上が利用していて、まだ利用していない人が48%を占めるという方がよい気がするんですけども、いかがでしょうか。
- 委員 1 ページの(1)と(2)で、どのぐらい利用されますか、どのような目的でこれから利用しますかというのは、独立した表になっておりますけれども、2 番目の、1 ページの(2)では通勤通学の利用者が少ないと見えてしまうかもしれないので、1 番の利用回数と関連させて重みみたいなものが推定できたらいいかなと思います。
- 座 長 例えば(2)の1年に数回の利用者が多く占めるため、「娯楽・レジャー」が28%と最も多いとありますが、一応クロス集計をした結果でこういうふうに言い切れるのかどうか。
- 事務局 クロスした集計で、1年に数回の利用者は、買い物、娯楽・レジャーが多いという結果になってございます。

- 座 長 1年に数回利用する人でも、忘年会のときに利用する人だとか、冬るときだけ利用する人だとか、そういう人もいると思うので、クロス集計をしたバックデータがあれば構わないと思います。今出てきた御意見は、印象として、通勤通学が非常に少なく感じてしまうので、データの出し方もご検討願います。
- 委 員 3市で、例えばほとんど利用したことがないというのが48%あるんですが、福井市、鯖江市、越前市ではこの数が違うのではないかと思います。ほとんど利用したことがないというのは、沿線によって違うかなという。それが出ていないので、何とも言えないんですけれども。
- 事務局 今回、合計したデータとしてお示ししました。さきに各サポート団体を通じて集めたこともあり、各サポート団体の皆さんにはそれぞれの市の固有のデータをお示したところがございますが、本日はその数値、それぞれの市の数値はお示ししておりませんけれども、その数値はデータとしてございますので、そういう中のわかるような、最終的なデータの示し方をしたいと思っております。
- 座 長 データとしては、かなりのものがわかると思いますが、今日は全体的な傾向を示すということかと思えます。何かその中で特徴的なところがこれと別にあれば、見られるといいのではと思います。そしてもう一つ教えてほしいと思ったのが、「かしこいクルマの使い方」を使って、今回アンケートをやられているわけですけれども、ほかでこういうような調査をされて、何かほかに似たような数字があるのかどうか。参考になるような数字があるのか。もしわかれば、教えていただければと思います。
- 委 員 これは皆さんに配布してPRしてということで、意識改革の一環として実施していますので、統計的な数字はとっていないと思います。
- 座 長 今回は3市の合計を出していますけれども、3市で違う傾向というのはあるのですか。あるのかどうか、もしわかるようなものがあれば、御説明を願いたいと思います。
- 事務局 本日、3市の細かいデータはお持ちしていませんけれども、3市で特筆すべきデータの出方はしておらず、大体同じような出方をしているという結果でございます。
- 座 長 先ほど、社長から事業者としての御意見がありましたが、例えば、3ページを見ていただいて、具体的にもう一度、例えばこの中で難しそうなものとか、何かそういうのがあれば御指摘していただければと思います。
- 委 員 「非常に重要」の割合を見ると、朝夕の運行本数が最も大きく出ているようであります。御利用は、朝の武生から福井方面というのが一番多いのですけれども、現在、朝6時55分から7時56分までの約1時間の間をとりますと、7本運行しておるわけがあります。7本ということは、約10分間隔です。それから夕方の、今度は帰りでありますけれども、福井から武生方面へというのは、17時から18時までの1時間、それから18時から19時の1時間というのは、20分10分間隔という間隔で、平均しますと15分間隔で運転をしているという状況であります。ですから、条件整備は必要であると思えますけれども、運行本数というのもありますけれども、よりよいダイヤということも考えていかなければいけないなど、今思っております。それと2番目に、普通運賃というのが出ておりますが、普通運賃の改善ということは、値下げということだろうと思います。要は、従来からそうですけれども、引き下げることによって利用客の増加というふうに結びつくことだろうと思うんです。ただ、会社の運営面からいきますと、収支の予測も勘案しながら、そのウエイトをどっちに置くのかということ、利用客の増加を優先していくのか、収支のことを考えていくのかという、そこを検討していかなきゃいけないということになるわけでありまして、これも大事なことになるんじゃないかなと思っております。それから、駅の駐車場台数というのが3番目ですが、駅までの交通手段というのは確かに脆弱であると思えます。

ク・アンド・ライドとかキス・アンド・ライドを要望されているということだろうと思います。これは確かに環境の問題もありますので、それらに対応してということでもあります。今後も進めていくべきものだとも思っていますし、沿線のそれぞれの駅の状況に応じて考えていかなければならないだろうと思っています。先ほど、一番要望が多いところに、神明西、西鯖江など出ていたんですけども、現状のところでは、これはなかなか難しい。難しいけれども、そこへパーク・アンド・ライドを設けていただきたいというニーズがあって、相反するわけじゃないですけども、そういう状況のところがあるものですから、これを解決していくには、少し離れたところでも、いい場所があれば、それを探していくとか、隣の駅のところにあれば、そここのところに設けていくとか、そういう方向があるだろうと私は思っております。それから、JRとの乗り継ぎの利便性ということが出ているんですけども、JRとの乗り継ぎの利便性ということとは二つあるんじゃないかなと思います。一つは、時刻のことだろうと思います。ダイヤの適正というんですか、連絡の時間がいいという問題と、それから駅の配置のことがあるのではないかなと思います。近いところで乗りかえができるということだろうと思います。どちらにしても、JRの駅と隣接している福武線の駅というのは、それと停留所でありますけれども、これはある程度限られておりますので、個々にやはり最良の方法を検討していかざるを得ないだろうと思います。時刻の問題も、ここの駅で合わせますとここの駅で合わないとか、いろいろなことが起こりますけれども、それをどうクリアしていくのか。一番いいのは、本数をたくさん出せば合うんですけども、そうばかりもいかないだろうと思います。それから最後の、終車の時刻というのがあるわけですけども、これは、終車の発車時刻を遅くすることだろうと思います。遅くすれば利便性が増すことは間違いのないと思います。ただ、そのことによりまして、利用客数と費用対効果の兼ね合いも考慮していかなければいけないんじゃないかなと思ったわけでありまして。終車というのは、時間を遅らせますと、最終の終着駅までのすべての機能を動かさなければいけないという問題が出てきますものですから、そこら辺のところも考えながらいかなければいけないんじゃないかなというふうに思いました。

○座 長 どうもありがとうございます。やはりサービス改善という視点から、要望の強いところは、今後できるだけうまく対応できるようなことで考えていただければと思います。

(2) 利用促進団体からの提案について

福井市、鯖江市、越前市のサポート団体より説明があり、主な質疑応答は以下のとおりである。

- 座 長 沿線のそれぞれの市のサポート団体、市民の方から具体的な御意見が出たということは、今後の活性化計画を立てる上で非常に参考になると思うんですけども、まず、今の発表につきまして何か御質問があれば。いかがでしょうか。
- 委 員 福井市の方にお聞きしたいんですけども、足羽中学校への通学と書いてありますけれども、中学校で自動車か何かで通学しているというのは相当あるんでしょうか。
- 委 員 冬期間です。
- 委 員 冬場は、新駅をすれば、中学校への通学の需要が見込まれるということですか。
- 委 員 現在は江端駅へ行くということですから、北へ向かって歩いて行って電車に乗る。要するに遠くなるわけです。直接乗れるような場所というのは、南の方へということですから、そういう意味の便利がよくなるということです。
- 委 員 ありがとうございました。それと、試行的にやっておりますパーク・アンド・ライドですけども、今現在のところ、まだ1桁台ということですけども、回数券でも一応利用できることになっております。

○委員 私は、まず買い物、ショッピングで行く人が多いというアンケート結果が出ていますね。そういう人たちは月に1回なり何回かしか出ていない。そういう人たちは、浅水駅のパーク・アンド・ライドは有料であるというようなことで、ほとんどとめられない。そういう人たちのためにハーモニーホールを開放していただいた。非常にありがたいんですが、そういう通勤通学、回数券のない人が利用しやすいように、何か御配慮いただけるとありがたい。

○委員 日野川の橋梁の補修の問題ですけれども、やはり鉄道事業というのは安全確保が第一ですから、あの橋梁は補修した方がいいという判断をしましたものですから、それはそれで適応させていただきまして、駅の方の整備はまたそれぞれで進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。揺れが激しいということは路盤整備を既に始めておりまして、今後も順次続けてやっていくことになっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。運賃につきましては、先ほど申し上げましたように、収支との問題というのものもあるわけです。これはいつも出てくる問題ですけれども、どこにウエイトを置いて設置をしていくかということは今後も考えながらやっていかなきゃいけないと思ひます。それと、新しい運賃制度とかそういうものも考えていかなきゃいけないと思ひますし、お得な、また、それぞれいろいろなイベントなどにも合わせたような各種乗車券の新設も考えていかなきゃいけないだろうと思ひます。それから新駅の設置、これは確かに利便性が向上しますし、利用客の増加になるといういい面を持っていることは間違いないと思ひますけれども、私どもの方からもう一つ考えますと、先ほどお話ありましたように、運転間隔を短くすることと早くすることと相反することになるものですから、そこをどうクリアしていくかということを考えながらやっていかなきゃいけないということが一つあるということだけは御理解いただきたいと思ひます。それから、駅施設の改善ですけれども、これからの時代、やはり利便性の向上というのは当然のことですけれども、バリアフリーも考えていかなきゃいけない時代になっているのではないかと思ひます。そういう意味も含めて、それぞれの駅ごとに立地条件が違うものですから、それぞれに合わせたような、この駅はどのような形がいいのか。先ほどからおっしゃっていますように、パーク・アンド・ライドをつけた駅がいいのか、いろいろな面も考えながら進めていかなきゃいけないだろうと思ひます。それから、急行列車の増発というお話もありましたけれども、これは、列車本数を同じ本数でいくということになりますと、急行を増やすということは普通停車駅の停車本数が減るということになるものですから、普通停車駅の御利用のお客様と急行停車駅のお客様という問題が一つ出てくるわけでありまして。それについては、急行の本数だけを増やせばいいじゃないかということになるわけですから、それにはまたいろいろと制約が出てくるわけです。そのところはいろいろとまた考えながら進めていかなきゃいけないというふうに思っております。

(3) 福井鉄道福武線活性化連携協議会及び再構築実施計画策定部会の経過及び今後のスケジュールについて

○座長 今日の第3回の連携協議会の中身は、アンケート結果と、サポート団体から利用促進を図るためにいかにしてこれから鉄道サービスの質の向上を図るか、利便性向上のための取り組みに関してのいろいろな御提案があったわけですが、実際にそれを利用者に結びつけるということでは、運賃の問題にもありましたように、利用促進を図っていく上で、それに見合った利用者が増えないといけないうわけで、そのための連携計画ですから、実際に利用者が増えるためには、鉄道事業者だけでなく、行政、

それから住民の全体にどういうふうに盛り上げるというか、活性化に向けて取り組みをやっていくかということが大事であると思いました。

○中部運輸局 今の説明をいただきました計画どおり進めていただければ、細かいところでいろいろ、新しい制度ですので、ああすべきだとかこうすべきだとか、いろいろな意見がおりになると思いますので、ご検討いただきながら、私どもも勉強しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○座 長 それでは、以上をもちましてすべての議事を終了いたしました。皆さんの御協力、どうもありがとうございました。

○事務局 先ほどのスケジュール等でも申し上げましたけれども、次回の協議会につきましては11月11日あたりを予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、以上をもちまして第3回福井鉄道福武線活性化連携協議会を終了させていただきます。長時間にわたり御審議、ありがとうございました。

以上

第3回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 出席者名簿

日時 平成20年10月23日(木)16:00～17:30

場所 ユアーズホテルフクイ5F

役員	種別	所 属	役 職	氏 名	出欠 代理出席者
座長	第3号	福井県立大学経済学部	准教授	浅沼 美忠	○
	第3号	福井県警察本部交通部	部長	前田 達男	○ 白崎課長
監事	第3号	福井県総合政策部	企画幹	笹井 博見	○ 辻参事
監事	第2号	福井県土木部	技幹	近藤 幸次	○ 中村課長
	第2号	福井鉄道株式会社	代表取締役社長	山内 和久	○
	第3号	福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会	理事	宮本 清司	○
	第3号	福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議	会長	斉藤 啓介	○ 内田副会長
	第3号	越前市・福武線を応援する連絡協議会	会長	大柳 登	○
会長	第1号	福井市	市長	東村 新一	○ 佐藤特命幹
副会長	第1号	鯖江市	市長	牧野 百男	○ 辻本課長
副会長	第1号	越前市	市長	奈良 俊幸	○ 河瀬課長
オブザーバー		国土交通省中部運輸局鉄道部	部長	渡邊 正文	○ 西尾専門官

〔総合連携計画作成市〕

福井市

鯖江市

越前市

〔事務局〕

福井市 巻田交通政策室長

同 脇本都市戦略部副理事

同 向坂交通政策室副課長

同 松井交通政策室主任